

# 瀬戸内の白砂が語る 愛媛の大地

白い砂浜に青々とした松林が続く様子は、日本の美しい海岸の風景として「白砂青松」と形容され、瀬戸内海の代表的な景観のひとつです。

この砂浜の白い砂は、瀬戸内海周辺に広く分布する花崗岩に由来します。中生代白亜紀にアジア大陸の東側で形成された花崗岩を含む大地が大陸から分裂し、約1500万年前に現在の場所まで移動してきたと考えられています。この移動こそが日本列島誕生のきっかけであり、花崗岩由来の砂浜の砂からは大地の成り立ちを知ることができます。

今回の講座では愛媛の白砂や花崗岩を観察しながら、私たちの足元の歴史を探ります。また、約1500万年前におこった現在の石鎚山周辺での火山活動にも触れ、久万高原町の大地の成り立ちにも迫ります。



今治市志島ヶ原海岸



石鎚山

**日時**

令和6年4月18日(木) 19:00~20:15

**場所** 久万高原町産業文化会館研修室 (久万高原町久万188)

**講師** 山根勝枝さん (愛媛県総合科学博物館学芸員)

**参加費** 100円 **定員** 50人

フォームから申込可↓



**参加には申し込みが必要です。**

※お問合わせ・お申込みは面河山岳博物館 (電話: 0892-58-2130 FAX: 0892-58-2136)

※お車の駐車は久万高原町役場および産業文化会館の駐車場をご利用ください。

## 参加申込票

以下に必要事項をご記入の上、博物館までFAXください。いただいた個人情報は適正に管理し、延期・中止など本事業に関するご連絡にのみ使用させていただきます。また、第三者に開示・提供することはありません。

参加者氏名	
住所	
電話番号	